スウェーデンの"反核気象人の会"

増田善信*

1986年8月4～8日の5日間，東京でWMO/IUGG主催の数値予報に関する国際シンポジウムが開かれた．一方，その直前の8月2，3の両日には，原水爆禁止1986年世界大会国際会議が開かれ，「核戦争を阻止し，核兵器を緊急に廃絶するために，全人類の良心に呼びかける」という訴えを採択した．この国際会議に参加し，起草委員の一人としてこの訴えの作成にも関与した者とし，また"核の冬"の一研究者として，私はこの訴えが「核戦争阻止，核兵器廃絶のための」行動の一つとして提起している「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名を，数値予報国際シンポジウムに参加した世界の気象学者に訴えようと思った．

このアピールは「ヒロシマ・ナガサキの悲劇を二度と許さないという被爆者をはじめ世界諸国民の願いにもかかわらず，はてしない核軍拡競争によって，ヒロシマ・ナガサキに使われた原爆の百万発分以上の核兵器が蓄積されています」と述べた上で「①核兵器の使用は，人類の生存とすべての文明を破壊します．②核兵器の使用は，不法かつ道義にそむくものであり，人類社会に対する犯罪です．③人類と核兵器は絶対に共存できません」と宣言し，「核兵器全面禁止・廃絶，すなわち，核兵器の使用，実験，研究，開発，生産，配備，貯蔵のいっさいの禁止を，すみやかに実現させよう」というもので，日本を含めた12か国の反核平和組織の代表によって，1985年2月に発表されたものである．このアピールは大きな反響をよび，既に国内では2300万人の人が署名し，国際的にも147か国で取り組まれているといわれている．

数値予報国際会議に参加していたアメリカ在住の日本人の気象学者のほとんどの方は既に署名をしていただいていたので，外国人約70名に手紙を出して署名を訴えた．率直に言って反応はそれほど多くなかったが，それでも数名の人から，本人だけでなく，家族や同僚の署名が送り返えされてきた．その中にスウェーデン気象水理研究所のPer Källberg氏の手紙があり，"Meterologists against nuclear weapons (Sweden)"の議長Hennig Rodhe氏（ストックホルム大学気象研究所）と連絡をとるようしたためられていた．早速連絡をとったところ次のような送事が来た．スウェーデンの気象関係者の反核運動の現状がわかると思うので紹介する．

拝復

核兵器反対運動についての10月10日付お手紙有難う．貴国でもこの運動についての気象人の活動があることを知って嬉しく思います．私たちの組織"反核気象人の会"はまだほんの2，3か月前に結成されたばかりで，今後どのように活動すべきかという点ではまだ明確になっていません．しかし，少くとも次のような活動をしようと考えています．

（1） 核兵器と核戦争の危機について我々気象人の間での熱心な討論．

（2） 大規模核戦争の大気に対する影響の可能性("核の冬"問題）について一般市民に知識を拡げること．

（3） 大気の中の放射性物質の地球規模の防護システムをどのようにデザインするかという問題の研究．

貴殿または貴殿の友人がこの種の仕事をどのように組織したかその経験を知りたいと思っています．貴殿が送って下さった"ヒロシマ・ナガサキからのアピール"には大きく共鳴しており，いま友人や同僚の中を廻しています．しかし，私たちの仕事はアピールに署名するだけであってはならないと思います．核戦争の危機と危険性について一般市民の意識水準を上げるためには多くの方法があり，我々はそのために働かねばならないし，またどうして危機をなくするか，少くとも小さくするかについてポジティブな考えを出さなければならないと思います．再度の御返事をお待ちしています．

敬具

*Yoshinobu Masuda，東京都狛江市和泉本町2-18-13

ビキニ水爆被災事件直後の1954年5月，日本気象学会は他学会に先がけて「水爆実験禁止に関する声明書」を採択した．これは(1)水爆実験によって成層圏に打上げられた放射能を持つ多量の灰は，地球をかこむ大気の大循環のために世界中にはこばれること．(2)このような大規模な大気汚染は長い間つづくので，日射その他の気象現象に異常をきたし，今後の凶冷その他の気象災害との関係については全く予想をゆるさないこと．を指摘した上で，“気象学的立場からみても”危険性のある水爆実験の禁止を訴えたもので，まさに先見的なものであった．

現在“核の冬”をはじめとして大規模核戦争の気象学的影響が問題にされている．もちろん，まだ研究すべき問題点が多々あり，早急な結論を下すべきではないことは明らかである．しかし，最近の日本の気象界はこの種の問題を議論することさえ“政治的”として回避するような空気がないであろうか．スウェーデンの“反核気象人の会”を見習いたいものである．

1987年地球化学研究協会学術賞「三宅賞」の受賞候補者および研究助成受領候補者推薦のお知らせ

三宅泰雄教授退官記念事業として，創立された(1972)地球化学研究協会は，その翌年から地球化学に顕著な業績をおさめた科学者に，毎年地球化学研究協会学術賞「三宅賞」を贈呈しています．

さらに1983年からは，あらたに，地球化学の若手研究者で海外シンポジウム等に出席し，論文を発表する者に対し，助成を行っています．

なお，三宅賞の賞金および研究助成金は本協会を母体として，1983年に新設された公益信託「地球化学研究基金」(受託者東洋信託銀行株式会社）から贈られます．

つきましては，下記の要領により，受賞候補者および研究助成受領候補者のご推薦をお願いします．

記

三宅賞

1. 本賞は地球化学に顕著な研究業績をおさめた科学者に贈呈します．
2. 本賞は賞状とし，副賞として賞牌および賞金（30万円）をそえます．
3. 本賞の贈呈は，1年1件（1名）とします．
4. 所定の用紙（学会にあります）に受賞候補者の推薦対象となる研究題目，推薦理由（400字程度），主な論文10編程度に略歴をそえて，協会事務所までお送り下さい．

研究助成

1. 研究助成は地球化学の若手研究者で，海外のシンポジウム等に出席し，論文を発表する者に対して，行われます．
2. 助成金は1件10万円とし，年に3件とします．
3. 所定の用紙に研究助成受領の推薦対象者となる若手研究者（各締切日において満40歳までとする）の略歴，研究業績，助成金使用の目的，出席予定の国際会議名（開催年月日，開催場所），発表予定論文題目，推薦理由等を記入して，協会事務所までお送り下さい．

三宅賞の贈呈および研究助成受領者発表は，1987年12月5日東京でおこないます．

申込締切日は，三宅賞は，1987年9月5日（土）・研究助成は，第1回締切1987年9月5日（土），第2回締切1988年1月末日．

地球化学研究協会
〒166 東京都杉並区高円寺北 4-29-2-217
TEL. (03) 330-2455